

団塊世代と エイジング

武蔵野大学大学院教授
博士(人間科学・早大)

川村 匡由

1. 団塊の世代とは

(1) 造語の主 堺屋太一氏

(2) 意味 1947-1949年生まれ・全共闘世代・ビートルズ世代・70年安保世代・グループサウンズ世代

→戦後のベビーブーマー(679万人)

(3) 注目点 戦後の民主教育教授・高度経済成長期の申し子・ニューシルバー・年金セーフ組(勝ち組)

→退職金市場60兆円?

(2007年・2015年問題)

2. エイジング

(1) エイジングの概念

加齢・高齢化

(2) エイジングと社会福祉

高齢化率・高齢社会・社会福祉基礎構造改革

(3) エイジングと団塊世代

2007年問題(定年)・2015年の介護(68歳の介護難民?)



元気: 地域活性化・地域福祉実践としての

有用な人材—社会参加・就労(ボランティア・CB)

要介護: 介護難民?—後期高齢期(病院・施設・自宅)

要看護: 看護難民?—終末期(病院・施設・自宅)

3. 地域の現状と今後

(1) 自然村から行政村へ

行政の合理化・効率化

→ 明治・昭和・平成の市町村合併

(2) 過疎化と過密化

戦後の高度経済成長と低成長

→ 産業・就業構造の変化と地域社会の
変貌

(3) 少子高齢化とライフスタイルの多様化

生きがい・介護・子育て支援の深刻化

→ 行政・家族・地域・企業などの動向

4. 団塊世代と地域社会

(1) 現役時代と地域社会

仕事と余暇の棲み分け

→企業の社会貢献とボランティア活動

(2) 定年と地域社会

社会参加と社会貢献(V・就労=CB)

→地域デビュー・地域活性化

(3) 老後と地域社会

生きがい・要介護・要看護サービス

→施設、在宅に引き続く第3のサービス

(地域密着型サービス・地域密着型介護予防サービス・地域支援事業と雇用創出)

5. 行政への期待

(1) 講座開設と情報提供

→国・県・市町村・社協など関係機関との連携・IT・HPの活用

(2) 活動の場の提供

→公共施設・機関の開放とCBへの支援

(3) 関係機関・団体との連絡調整

→住民・団塊世代・シニアへの啓発・地元におけるネットワーク化とその手法の提供

6. 各地の動向

- (1) 県 ・ふるさと福祉村・街かどふれあいプラザへの財政支援(地域福祉支援計画)
→福祉コミュニティの創造・再生
(介護予防ー生きがい・健康・環境づくり)公民館・宅老所などの活用
・地域雇用創造バックアップ事業への助成(労働局)
- (2) 県社協 ・社会福祉事業・NPOへの相談・情報提供・研修・助成(新WINCプラン)
- (3) その他 ・まちづくり・配食・託児喫茶店・特産市などの各種コミュニティビジネ⁷

7. 当面の課題

(1) 団塊世代のニーズ

→無関心(隠居)型・関心(社会参加)型・個人志向(個人中心)型

(2) 行政の組織性と職員の資質

→組織(非連続性)・上司・個人ミッション

→業務か・個人的関心もか(社会参加への意識化)

(3) その他

9. 皆さんの場合

- (1) 人生90年時代をどう生きるか
- (2) 自己(団塊ジュニア?として)
- (3) 家族
- (4) 老親(同居・別居)
- (5) 団塊世代(親世代)への期待

{参考文献}

1. 拙著『団塊世代と地域福祉』ミネルヴァ書房・近刊
2. 拙編著『地域福祉とソーシャルガバナンス』中央法規出版
3. 拙編著『ボランティア論』ミネルヴァ書房
4. 拙著『社会福祉普遍化への視座』ミネルヴァ書房

* 川村匡由のホームページ

<http://www.geocities.jp/kawamura0515/>

ご清聴、ありがとうございました。